
人の背中で龍は眠る

Ponkichi

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

人の背中で龍は眠る

【Nコード】

N5110Z

【作者名】

Ponkichi

【あらすじ】

その刀は一太刀で何千もの妖を斬ることができるという。
その刀は一太刀で何万もの人間を斬ることができるという。
その刀は使い手により名を変える。
あるときは、聖剣。また、あるときは魔剣とよばれた。
その刀は使い手により形を変える。
あるときは、巨大な大剣や太刀となり、また、あるときは、小太刀や双剣となった。

妖対人間対人間の闘いが今、始まる。

序章（前書き）

稚拙な作品ですが、楽しんで読んで頂けたら幸いです！
よろしくお願ひします！

序章

その刀は一太刀で何千もの妖を斬ることができるという。

その刀は一太刀で何万もの人間を斬ることができるという。

その刀は使い手により名を変える。

あるときは、人間の手に渡り妖を倒す聖剣になり、また、あるときは、妖の手に渡り人間を滅ぼす魔剣となった。

その刀は使い手により形を変える。

あるときは、巨大な大剣や太刀となり、また、あるときは、小太刀や双剣つてなった。

だが、一つだけ変わらないことがある。

それは、この刀が破壊の刀だということだ。

「おじいちゃん！おはようございます！ほぐら、隼人も挨拶しなさい！」

この口うるさいだけ女は、俺と同じ家に住んでいる上原愛梨だ。別に兄妹という訳じゃ無い。ただの幼馴染だ。

「おはよう、和尚さん」

俺の名前は黒崎隼人。

ここ柳楽寺しゅうらくじの前に母子手帳と一緒に当時5才の俺は捨てられていた。

愛梨も俺も今は14歳、中3だ。

「隼人、おはよう。愛梨はもう少し女の子らしくなさい」

この人は、柳楽寺の住職で愛梨の祖父、上原楽尚。

俺を拾ってくれた張本人だ。

昔は俺を捨てた親を恨んでいたが、今は和尚さんに感謝する気持ちの方が大きい。

そんなこんなで平和に暮らしている。

あることを除いては…

序章（後書き）

僕自身、受験生なのであまり更新出来ませんが、気長に見守って下さい。

感想お待ちしております！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5110z/>

人の背中で龍は眠る

2011年12月17日11時51分発行